

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 11 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100660		
法人名	社会福祉法人 共助会		
事業所名	グループホーム 畑賀時計台		
所在地	広島市安芸区畑賀2丁目23番33号 (電話) 082-820-6190		
自己評価作成日	令和2年 10 月 17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490100660-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 1 1 月 2 7 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・家庭的な雰囲気を大切にし、利用者様が落ち着いて過ごせるように細やかな支援を心がけている。・認知症予防のため毎日、体を鍛えたり脳を活性化するようなレクリエーション活動やクラブ活動を継続し生活リズムを整えるよう努めている。・町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加、地域の方々との連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム畑賀時計台は、自然に囲まれた住宅街に位置し、利便性の良い場所にあります。事業所には地域交流室があり、地域に開放され、地域の方と交流が盛んに行われています。災害時には地域と協力体制を築き、日頃から地域密着の事業所で地域の方々からお花の差し入れがあり、事業所の回りや室内に花があり四季を感じられます。利用者がこれまでの暮らしと変わらない家庭的で、我が家のような生活空間の中で、一人ひとりの人格が尊重されています。家族からは、ここにいれば大丈夫と言ってもらえるよう、安心した環境となるよう、全員でケアに取り組んでいます。職員の良好なコミュニケーション、医療機関との連携、利用者には家族のように接し、看取りに至るまで支援をしています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を事業所内に掲示している。職員は毎日、朝礼で理念を唱和しており、理念に沿った支援を心掛けている。	グループホーム畑賀時計台の理念(笑顔と挨拶)を忘れず、親切で丁寧な言葉づかいに心がけ、美しい態度で(目配り・気配り・心配り)を掲示し、朝礼で唱和し家庭的な雰囲気の中、居心地の良い事業所となるよう実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入っており、地域の清掃活動や行事に参加したり、近隣の幼稚園・小学校との交流を年1回ずつ行ない、地域の方たちと交流している。また、月1回の認知症カフェに地域の住民が参加している。	地域の祭り、清掃活動、地域ボランティアの訪問、幼稚園児訪問、小学生による花の提供、地域交流室で認知症カフェを開催し、地域の方の参加で地域交流が行われています。最近ではコロナウイルス感染症予防対策のため中止されたり、人数を少なく時間を短縮して開催される予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月1回 認知症カフェ実施中。コロナウイルス感染対策のため中止することもあったが、コロナ感染予防対策実施し再開。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月1回運営推進会議を開催。事業所内の報告を行い出席者からアドバイスを受け、ミーティングで検討し活用する事例があった。	2ヶ月に1回家族代表、町内会副会長、民生委員、地域ボランティア、社会福祉協議会代表、施設長、管理者の出席で開催しています。事業所での行事、予定、利用者状況をお知らせしています。出席者からの助言、提案をより良いサービスの提供できるようにしています。今、外出が出来ない状況なので「移動売店を利用しては」との提案を頂き、週1回15分程度の移動販売を楽しまれています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内を市へ提出し出席を依頼するが欠席。地域包括支援センターへ利用者や職員に関する相談を行い、助言を得て事業所の運営に活用している。	広島市介護保険課事業者指導係に運営推進会議の案内を送っています。報告書も提出しています。地域包括支援センターの担当者から情報を得たり、困難な事例等を相談出来る関係にあり連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの重要性について事業所内で研修を行っている。毎月ミーティングで話し合い対策を講じている。出席できない職員には後日資料を配布し説明を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に説明をし、文章にて同意を得ている。(解放制限、4点柵) 3ヶ月1回、身体拘束廃止委員会を開催。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の弊害について正しく理解するよう、議題を上げて話し合っています。例えば異常行動のある方については、見守る防犯カメラの設置について、家族と話し合っています。拘束が一時的ではなく、長期になる場合は主治医の意見を聞いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は虐待防止関係の研修に参加したり、ミーティング等で虐待に関する気付きを話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は権利擁護に関する研修に参加し、学んだ事をミーティング等で話し合い利用者様の対応に活かしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書及び利用契約書、個人情報同意書、重度化対応・終末期ケア対応方針等の書面を提示し、ゆっくり丁寧に説明し、理解納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員と家族の交流、家族間の繋がりを深める目的で年2回ほど「家族交流会」開催し、家族の意見や要望を聞いていたが、新型コロナウイルス感染対策のため面会が制限され家族交流会も延期させていただいている。毎月、はすけ通信を郵送と電話にてご家族にグループホームでのご様子を報告させて頂いている。苦情があった際は速やかに対応させて頂いている。	家族には毎月「はすけ通信」を送り利用者の様子や事業所での行事等お知らせしています。家族とは電話で報告し、何か要望や意見があれば、職員全員で共有しその都度対応している。今はコロナウイルス感染症予防対策の為、家族会は開催されていない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を行い、職員の意見を聞き改善できるところは改善するように努めている。月1回 ミーティングで職員の意見を聞くようにしている。	全体ミーティング、フロアミーティングの中で職員の意見や提案を聞き、日々の業務の中でも情報やケアの統一を改善に繋げている。施設長、管理者は個人面談を通して気楽に相談出来る支援体制を採っています。	定期的に面談を行い、職員の意見の吸い上げを行っていますが、職員からの意見や提案を言い易い環境作りをされる事を今後期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できるだけ働きやすい環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月2回程度の法人内勉強会を実施。その他として外部研修や施設内勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホームや他の施設と連携を図り、話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の初日から、初期アセスメントを実施している。初期計画書を作成し、ご本人の希望を確認し、プランに取り入れサービスに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時の初日から、初期アセスメントを実施している。初期計画書を作成し、ご本人の希望を確認してプランに取り入れサービスに反映している。家族様の相談事にその都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期アセスメントをしっかり実施し、適切なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者様が対等な立場でともに生活して信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族様と共に利用者様を支え合って支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの馴染みの関係が途切れないように面会等も気軽に訪問できるように気配りして対応に心がけている。(新型コロナ感染予防対策を行いながら実施)	今はコロナウイルス感染症予防対策の為、外出や、地域の方の面会や、馴染みの場所、自宅に帰られる事が出来なくなっています。家族とはZOOMでの面会や、2階のバルコニーに利用者が出られ、1階の駐車場で家族が待機していて顔を合わせ、声を掛けられる面会を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の性格や相性等を把握し、席順やレク活動などにも配慮しながら利用者同士が関わりを深められるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等により退居された場合でもその後の経過確認を行い、家族様との関係を続け、相談、援助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向や要望は介護日誌や連絡帳に記載し、職員間で共有。その後ケアプランに反映している。書くことが好きな利用者様にはボードに献立を書いたり、入浴表の記入をしていただいたりと利用者様の要望を実現している。	利用者の意向はケア日誌、連絡帳で申し送りの時記録しています。一人ひとりの思いをくみ取り、日々の関わりの中で更に感情や言葉を聞き取り、職員間で話し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などしっかり把握し、その情報は職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりADLや心身の違いを把握し、本人様の能力に応じて、それぞれの過ごし方をさせていただいている。また連絡ノートの活用でよりきめ細かい情報把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントで情報を把握し、日々の個人記録や、計画の実施状況を確認。本人・家族様、担当職員も参加して担当者会議開催しプラン調整を行っている。フロアミーティングで他の職員の意見を聞き、3ヶ月ごとにモニタリングを実施。計画の見直しをしている。	個人記録を基に日々の生活の気付き、利用者、家族の希望、医師、看護師、職員の意見を参考に3ヶ月に1回モニタリングを実施しています。介護計画は6ヶ月毎に見直し、レベル低下や変化があれば、その都度見直され、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、ケアプランをチェック表に記入し、記録に残し職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々にも生まれるニーズに対して、施設内で対応できることは対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園児との交流や小学生との交流を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族様の要望でかかりつけ医を決め、各々の医師と連絡を取り対応している。事業所の協力医を主治医とする利用者が多く、協力医は月2回往診し利用者の健康状態を把握している。訪問看護師と契約しており、週1回、訪問実施し利用者の健康状態を把握。24時間連携体制を確保している。	入居前の医療機関を希望された場合、個々の医師と連絡を取り対応しています。事業所のかかりつけ医は月に2回の往診で受診し、看護師による週に1回の健康状態の把握で、24時間連携の医療体制で適切な医療を受けています。歯科医は月1回、歯科衛生士は週1回の往診で口腔ケアの指導も受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と随時、連携を図り利用者様が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、地域の病院とは密に連携を取りように配慮している。入院時は本人様の情報収集のため面会や医療連携室との連携に努めている。退院時も同様に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所としては要望があれば看取りを行う方針である。利用者が重度化した場合には、家族の要望を確認し、医師の判断を基本として支援策を立て対応している。今まで数例の看取り事例がある。(家族様、医師、訪問看護師、職員との連携を図りながら支援に取り組んだ)	入居時、医療的な対応、看取りに関する指針を説明し了解を得ています。重度化された場合その都度、医師、看護師、家族、職員で話し合い今後の方針を決められ、家族の希望に沿った支援をしています。今年は1名の看取りをされています。家族が安心された状態で見送られ、利用者にとって最良の支援が出来るよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備え、マニュアルを完備し、職員が皆で情報を共有している。また急変時や事故発生時は、その都度臨機応変に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練に関しては職員の研修や、消防署立会いの下、年2回施設内で火災を想定した訓練を行っている。消火器の訓練も実施。災害時に関しては、地域の防災会議「地域町づくり会議」に参加し地域の防災情報を入手している。自然災害時の運用マニュアル作成をし、職員に周知徹底している。備蓄も確認している。	年2回の災害を想定した避難訓練を実施しています。消防署立ち合いの下に、消火器使用、利用者避難等を行っています。災害時については、地域での防災会議に参加し、地域の防災情報を得ています。地域の過去の大雨災害についても勉強しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊厳やプライバシーに関する研修を法人内や施設内で行っている。職員は利用者様に対して、誇りやプライドを傷つけないように、言葉遣いや対応に気を付けている。利用者の前で他の利用者様の個人情報をお話さないこと徹底し、職員間でもお互い注意し合っている。	プライバシーについて研修で幅広い知識の取得を図り、職員は利用者の目線で対応し、不適切な事は指導を行い、気付きの重要性をお互い注意して、言葉遣いに気を付けています。	利用者との距離が近づくに連れ、日頃の会話の中で、知らない内に発してしまう言葉があり、気を付けないといけないと思われておられます。今後、繰り返し接遇の研修を行い、初心を忘れない様にされる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の利用者様や表現が思うように出来ない方に対し、言葉だけでなく動作や家族様の情報を汲みながら、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーション活動やグループワークなど大まかな一日の流れは出来ているが、利用者様の個性やその日の体調・精神状態など配慮しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時から整髪や洗顔、着たい服などその人らしい装いが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食と夕食は1ヶ月単位で献立が立てられ外部業者から食事が提供されている。朝食は1品は手作り、みそ汁、ごはん、ヨーグルト、漬物かふりかけ提供。月に2回程 手作り料理の日を設け、利用者の要望を聞き、ちらし寿司や季節にあった料理を提供している。年1~2回外食を楽しむこともある。	食事は配食業者からの食事を提供しており、食事形態も個別の嚥下食等状況によって提供しています。朝食は事業所で1品手作りで味噌汁、漬物、ヨーグルト等の献立で提供しています。年間の行事食、月に1回の手作り料理は、職員により利用者の好みを聞き作られ、お寿司、炊き込みご飯、お刺身、赤飯、誕生日のケーキ等利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量や水分量をチェックし、一人一人が栄養面や水分不足にならないように十分配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月1~2回の訪問歯科サービスを受け、指導・助言を頂いている。それを参考に毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日、排泄チェック表に記入し個々の排尿・排便の情報を把握している。チェック表を参考にしながら、利用者のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援など自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握し共有しています。声掛けや誘導で、排泄の自立に向けた支援をしています。夜間はゆっくり休まれるよう、紙おむつを使用する方もいます。排便コントロールは看護師に相談し、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し、水分補給やできるだけ座位が取れる方は座位で排泄していただき便秘にならない工夫をしている。医療と連携し、排便コントロールがスムーズにいくように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回入浴と決めているが、利用者様のその日の体調や精神状態に合わせて実施している。入浴の際、職員と会話をしながらゆっくりと時間をかけて楽しんでもらえるよう支援している。機械浴もあり、車いすの方はリフト浴で湯船に浸かり気持ちよく過ごしていただくよう支援している。	入浴は週に2回体調に合わせた支援をしています。入浴の好きな方が多く、しっかり湯船に入り楽しまれています。リフト浴もあり、入浴の際は会話をしながら、リラックスされる時でもあり、楽しまれています。状況によっては、清拭、足浴、シャワー浴その時に応じた支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体力や体調に合わせて休憩して頂いている。睡眠時間も本人様の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や訪問看護師の指導の下、一人ひとりの服薬情報を介護職員が共有し事故の無いよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様個々の趣味や生きがいなどを反映して、食器拭きや掃除などお手伝いをして頂いている。また日中活動(月々のカレンダー・壁画作り、一行日記、習字、生け花)など毎日、楽しく過ごせるよう提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間行事の中にお花見や外食、地域の行事などに参加をして頂くようにしていたが、コロナウイルス感染予防のため中止となり、施設内での行事や食事会に変更して楽しんで頂いている。また家族同行によるドライブ等の外出も支援している。(感染予防のため車窓など工夫されている。)施設の花壇や植木鉢に水やりや野菜の収穫など職員と一緒に楽しんでいただいている。	今まで行われていた地域の行事、ドライブ、花見、外食等がコロナウイルス感染症予防の為中止となり、ベランダの花や、野菜の水やり、収穫、ベランダでの体操、事業所での行事を工夫され、楽しまれています。家族とのドライブも車窓から景色を見るような楽しみ方となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の所持金は、家族が施設管理となっている。生活に必要なものがあれば、家族様に連絡をし、持ってきて頂くか預かり金の中から購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話やZoomを希望されている利用者様、家族様には職員が対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	専任の担当者を配置し、施設内の掃除と庭の花の管理を行っている。(週3回) 共有部分や居室の掃除は毎日実施して清潔感を保っている。季節の花を飾ったり、利用者様の作品を掲示して居心地のよく過ごせるように工夫をしている。シーツ交換と一緒に手伝ってくださる利用者様もおられる。	リビングには毎月大きな手作りの壁画を利用者、職員で作られ飾られています。廊下には利用者の作品が掲げられ、利用者の生け花、玄関やベランダに地域の方が持って来られた花、小学校からのプランターの花が置かれています。温度や湿度、換気、清潔に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルや椅子の配置、席順にも気を配り仲良く過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使い慣れた家具や置物などを居室に置いていただき、本人様が落ち着く環境を整えている。利用者様は家族の写真や手紙を壁に掲示するなど居心地よく生活できるように工夫している。	自宅で使われていた馴染みの置物、ハンガーラック、テレビ、家族写真、ラジカセ、携帯電話、人形、机、ソファ、手紙等持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室は個室になっており、プライベートは保たれ、安心して生活できるようになっている。建物内が明るく清潔で廊下は広く手摺もあり安全・快適に過ごせる空間になっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 畑賀時計台

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム畑賀時計台

作成日 令和 2年 10月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者様が穏やかに過ごせるように職員の接遇の質を上げたい。	職員の挨拶・言葉遣い・態度等の質の向上を目指す。	笑顔で挨拶、丁寧な声かけ、人格を尊重した対応を心がける。(毎日、唱和する)	12か月
2	13	入居者様が安全且つ安心して生活を送っていただきたい。	職員一人一人が認知症に対する知識を学び介護技術の向上を目指す。	外部や法人内の研修会に参加し、職員・入居者・ご家族に分かりやすく説明できるようになる。	12か月
3	11	職員一人一人の意見や提案を聞き、改善すべき点を見つけサービスの向上に努めたい。	職員一人一人が提案しやすい環境作りをする	定期的に面談を行い、職員の意見や提案を聞き改善できる所は改善していく。	12か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。